

青少年 裾野市 補導センターだより

令和3年9月
R3. No.2(通算34号)

裾野市青少年補導センター TEL994-0145 FAX992-4047

令和3年度補導活動の重点

「行き会う青少年に積極的に声をかけよう」

特別寄稿

子どもが幸せを感じる3原則

裾野市生徒指導部 指導担当

裾野市立富岡第一小学校長 勝又 和仁

子どもの「自己肯定感」について勘違いした受け止め方を時々耳にします。例えば「自己肯定感が高い子どもは、自意識過剰になる。自己中やわがままになる。」など。自己肯定感という「自己」とは、何かできることではなく、できないこと、駄目なところも含めての「自己」であり、そのような自分を肯定していくという感覚です。自意識過剰やわがままというとらえ方とは違ったものです。その際にポイントとなるのは、「条件付」ではなく「存在そのもの」を認めるという視点です。「〇〇ができたら」という条件付けて認めるのではなく、できない自分を含めて自分を認める、存在そのものを認めることが大切になってきます。

アドラー心理学でいう「幸せの3原則」をベースにして、より子ども達に即した形として①自己受容②他者信頼③貢献感について説明したいと思います。

「自己受容」は、自己肯定感と同じで、マイナスに見えることも含めて自分の存在を認めることです。「他者信頼」は、人を信頼できることに繋がります。人から褒められても「何か裏があるのでは」と感じてしまう人は、自己受容ができていないことで、他人を信頼できない状態にあります。また、「貢献感」は「誰かのために役に立っているという感覚」で、こうした感覚が土台にあることで、他人から「ありがとう」と言われると、人は素直に嬉しい気持ちになります。

子どもの視点から言えば「自分は生きていて良かった」「誰かの役に立っている」と思えるようにしてあげることが大切になってきます。例えば、お母さんがしている食事の手伝いを子どもがしたいと言ってきた時、「手伝ってもらおうと時間がかかるな」と思っても、子どもができることをお願いする。この「貢献感」や「貢献欲」を育てる活動の内容は、年齢や本人の意欲などによって変わってきます。このように、子どもが幸せを感じる3原則は、大人の前向きな関わり方によって育てていくことができると思います。では、どのような関わり方をしていけば良いか。それは、子どもの「直してほしい」ところではなく、その反対の「褒めるところ」を見つけて、言葉掛けをしていくようにする。「否定文」ではなく「肯定文」で伝えることがポイントです。例えば、「走らないで」は「ゆっくり歩こうね」などと言い換える方が、受け入れやすいと思います。また、子どもの話を聞くときの傾聴のこつとして子どもの言ったことを「オウム返し」すること、話す内容は子どもが8割、自分は2割とすることが重要であると思います。

自分が子どもだった時を思い出してほしいと思います。子どもは失敗するのです。そのときに一方的に責めるのではなく「失敗した時こそ、子どもとの信頼関係を深めるチャンス」と考えてほしいと思います。

県内一斉夏季少年補導

7月20日(火)

夏季一斉補導を実施しました。今年は裾野駅・岩波駅の周辺を中心に、巡回活動や駅前での声掛けを行いました。

裾野市役所では、集合時刻の18時50分には、補導員の皆様だけでなく、協力をお願いした裾野警察署生活安全課や少年警察協助員の皆様や地域安全推進員の多くの皆様が集まってくださいました。今年は補導員の皆様はもとより、警察協助員・地域安全推進員の皆様も例年より多かったのではないかと思います。総勢70名近い参加者があり、活動前のセシモニーを行った後、各ポイントを巡回しながら裾野駅前に移動し、電車を利用する高校生を中心に啓発のための声掛けを行いました。7月は「青少年の非行被害防止強調月間」でもあるので、駅前ではこのキャンペーンも兼ねてポケットティッシュを配りながら声掛けを行いました。

電車を利用する高校生の姿はいつもより、少ないような気がしました。

もう一方の、岩波駅前でも、電車から降りてくる高校生を対象に声掛けを実施しました。やはり、高校生の数は例年より少ないように感じました。

全体的に声掛け数も例年より少なかった印象はありますが、問題になるような事案もなく無事に終了しました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

《令和3年度 夏季一斉補導参加状況》

(人)

地区	補導活動内容及び 補導活動場所	補導員	地域 安全推進委員	警察官	警察協助員	警察署 生活安全課	学校教育課	その他	声掛け
東	市役所→小柄沢公園→裾野駅(西口で声掛け)→佐野原神社→平松八幡宮→裾野駅(東口で声掛け)→市役所	6	5	0	4	2	1	1	45
西	A. 市役所→ベルシティ→新道通り→裾野駅(西口：声掛け)→駅周辺(ローソン・コメダコーヒー)→駅西口→市役所	9	5	0	3	0	0	2	30
深良	岩波駅(駅前で声掛け)(19:16と19:46の電車で昇降する高校生中心)	5	4	0	0	0	0	1	35
富岡	市役所→小柄沢公園→裾野駅(西口で声掛け)→佐野原神社→平松八幡宮→裾野駅(東口で声掛け)→市役所	5	4	0	2	0	0	1	30
須山	岩波駅(駅前で声掛け)(19:16と19:46の電車で昇降する高校生中心)	5	0	1	0	0	0	1	20
合 計		30	18	1	9	2	1	6	160

令和3年度前半(4月~8月)

補導活動の様子

8~9月の補導活動は中止!

10月の補導員全体研修も中止!

例年の夏ならば「市の夏祭り」や「富士山すその阿波踊り」あるいは「各地区の夏祭り」などの夏の祭典があり、補導センターとしても、「夏季特別補導」として、祭典補導等を展開してきましたが、今年はこれらの祭りが新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、全て中止となっていました。

(補導活動参加状況)

補導員は半数ずつ活動します

(4月~8月)

	地区	補導員数	活動回数	参加延人数	補導参加率	平均参加人数	声かけ人数
令和3年度	東	(6+6)名	6回	41名	97.6%	5.9人	129名
	西	(8+8)名	6回	51名	91.1%	7.3人	56名
	深良	(5+5)名	5回	28名	80.0%	4.7人	185名
	富岡	(8+7)名	6回	39名	75.0%	5.6人	52名
	須山	7名	4回	23名	82.1%	5.8人	20名
	合計	60名	27回	182名	85.7%	5.0人	442名

さらに新型コロナウィルス感染拡大に伴い、静岡県も「まん延防止重点措置」から「緊急事態宣言」の対象地区となっていました。そこで、青少年補導センターでは、コロナウィルス感染拡大防止対策として、8月及び9月の定期補導活動は中止としました。

10月以降の活動につきましては、状況を勘案しながら対応を検討することとしています。

街頭補導記録簿より

- ・日が長くなったせいか人通りが多かった。富士見台公園で、高校生のカップル1組に声を掛けた。(5/28)
- ・今後の補導の取り組み方について話し合いながら、通常のコースを徒歩で巡回した。1班の班長が同行して、ご自身の経験をもとに指導してくれた。(5/28)
- ・鈴木医院から帰るところだったらしい高校生が無灯火で自転車に乗っていたので、声掛けをした。(6/11)
- ・岩波駅前では、2~3メートルの間隔をあけて立ち、帰宅する高校生への声掛けを実施した。(5/28)
- ・高校生たちは男女とも笑顔を見せながら、軽くうなずいたり、頭を下げたりして通り過ぎて行った。(7/9)
- ・声掛け運動の一環としてポケットティッシュを配布しながら、駅を出入りする青少年に声掛けをした。(7/20)